公民連携の進め方

わが国はすでに、人口減少高齢社会に入っています。人口減少による税収減少、高齢化による社会保障費増大等により、ますます厳しい財政運営が予測されます。

このような中、今後より一層重要となるのは、民間の技術・資力・活力と、行政の資産や情報の協力を図る「公民連携」の推進です。

例えば、鹿児島県鹿屋（かのや）市の元副市長 福井はやとさん（2014年に農林水産省から出向）は、毎週水曜日の昼休みに副市長室の扉に「はやとの部屋」という手作りの垂れ幕をぶら下げて、誰でも自由に出入りし喋れる場を作り、そこで出るアイデアをもとに、ご自身が先頭に立ち、鹿屋市職員や漁協、農協、地元企業やアーティストを巻き込んで、特産品のカンパチや豚バラ肉を全国に売り出しました。

神奈川県では、令和3年4月に「いのち・未来戦略本部室」を設置し、大学との連携、最先端医療産業の創出・拡大、企業との包括連携協定など、公民連携に関する業務に取組むこととされています。

より横断的、より積極的な公民連携の展開と、「いのち・未来戦略本部室」が持つ公民連携手法を神奈川県全体に拡げていくべきと考えます。

県議会質疑応答（要旨）

古賀てるき

厳しい財政状況の下、今後より一層重要となってくるのが、民間と行政の協力を図る「公民連携」であると考える。新たに設置された「いのち・未来戦略本部室」が持つ公民連携の手法を、今後どのように活用していくのか所見を伺う。

黒岩知事

今後ますます多様化・複雑化する社会的課題に的確に対応していくためには、民間事業者等が有する強みを活かし、ともに政策を作り上げるという意識が必要となってくる。いのち・未来戦力本部室をはじめ、これまで県が培ってきたネットワークを最大限に活用し、県民サービスの一層の充実に向けて、全庁横断的に公民連携の取組をさらに進めていく。

（左）「はやとの部屋」手作り垂れ幕。
（中）カンパチロウと福井さん。
（左）豚バラ肉と芋焼酎を売り込む福井さん。

県有施設の再整備における規模の縮小と機能の充実

昭和40年代、50年代の高度経済成長期に造られた公共施設等が一斉に老朽化し、更新時期を迎えています。

しかし、人口増と税収増のもとでの「拡充」の発想の中で造られてきたこれらの施設が、反対概念である「縮小」されるだけでは、今後の利用状況の変化には対応が不十分であり、施設の再整備にあたっては、施設の数や維持更新費を減らしつつも機能の充実を図る「縮充」の考え方が重要です。

千葉県佐倉市では、老朽化した学校のプールを廃止し、民間スイミングスクールや公営プールを活用して、水泳専門のインストラクターが指導するといった取組により、コスト縮減はもとより、天候に左右されず環境の安定した施設で計画的な授業を行うことが可能となりました。

折しも、「神奈川県公共施設等総合管理計画」は5年ごとを目安に見直しを行うこととされ、今年度中に改訂が予定されていますが、この改訂にあたり、機能は縮小しても機能の充実を図っていくという「縮充」の考え方を取り入れるべきと考えます。

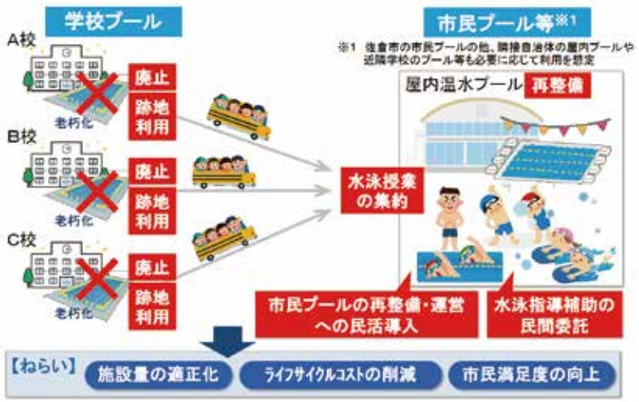
県議会質疑応答（要旨）

古賀てるき

「神奈川県公共施設等総合管理計画」の改訂にあたり、施設の再整備については、「縮充」の意味する「規模は縮小しても機能の充実を図っていく」という考え方を取入れることが重要と考えるが、所見を伺う。

黒岩知事

県有施設の再整備においては、整備費や維持管理費の抑制に向けて、施設規模を縮小することは重要な視点だが、同時に、多様化する行政ニーズに的確に対応できるよう機能の充実を図る視点も必要である。今年度改訂する「公共施設等総合管理計画」の中で、「規模の縮小」と「機能の充実」の両立について明確化し、多様化する行政ニーズに合った県有施設の再整備を進めていく。



出典：佐倉市ホームページ

本会議の録画中継を県議会ホームページでご覧いただけます。
https://kanagawa-pref.stream.jfit.co.jp/